

[382]九州大学大型計算機センターニュース :
No. 382

<https://doi.org/10.15017/4785618>

出版情報 : 九州大学大型計算機センターニュース. 382, pp.1-8, 1988-11-08. 九州大学大型計算機センター
バージョン :
権利関係 :



九州大学 大型計算機センターニュース

No. 382

1988. 11. 8

福岡市東区箱崎6丁目10番1号
九州大学大型計算機センター
広報教育室(TEL092-641-1101)
内線 2505

目 次

1. 専用回線による端局の設置の再開について	1
2. BITNETの機能追加について	2
3. N1MAILとBITNETとのメール中継について	4
4. UTSからN1MAILおよびBITNETへのメール送信について	6
5. CIT482の移設について	6
6. 利用の手引ネットワーク編の発行について	6
7. SPSS/Xの運用について	7
8. MSP版C言語の制限解除について	7
9. データベースシステムGENASのデータの更新について	8
10. 第10回全国共同利用大型計算機センター研究開発連合発表講演会の お知らせ	8

1. 専用回線による端局の設置の再開について

専用回線による端局の新規設置およびPACXを経由して接続する形態への変更については、
昨年(1987)の11月1日より受付を停止していましたが、この度通信回線設備の増設を行いましたので
受付を再開します。また、交換回線による接続での端局設置は従来通り受け付けます。

なお、「端局設置申請書」は所属の事務部を通じてセンターに提出してください。

(共同利用掛 電(内)2505)

2. BITNETの機能追加について

11月1日からBITNETに下記の機能を追加しました。

- ・BITNETコマンド(メニュー形式)において、日本語メール・日本語メッセージの送信および表示のためのオペランドを追加
- ・BITSMail(コマンド形式)において、既存のデータセットの内容をメールの本文とするオペランドを追加

1. 日本語メール・日本語メッセージの送信および表示

1) 入力形式

コマンド	オペランド
BITNET	[OPT(機能番号)] [NI]

2) 機能

メニュー形式のBITNETを起動する。フルスクリーン型端末(F6683系端末)又はTTYPTD用のエミュレータを持つパソコン端末で起動できる。

3) オペランドの説明

OPT (機能番号): 下記のBITNETの機能番号を指定する。このオペランドを省略すると機能選択画面となる。

- 1 メールを作成して送信する
- 2 日本語でメールを作成して送信する
- 3 ファイルを送信する
- 4 メッセージを送信する
- 5 日本語のメッセージを送信する
- 6 受信済みのメール、ファイル进行处理する
- 7 受信者情報を作成・変更・削除する
- 8 PFDを呼び出す

NI : このオペランドが指定されると日本語PFD画面となり、日本語メール・日本語メッセージの送信および表示を行うことができる。このオペランドが指定できる端末は下記のとおりである。なお、フルスクリーン型端末(F6683系端末)の場合はこのオペランドは必要ない。

- ・日本語対応のTTYPTD用のエミュレータを持つパソコン端末
- ・N-1ネットワーク経由の端末で、かつFNVT(日本語対応)が動作する端末

4) 注意事項

FNVT端末およびパソコン端末で画面が乱れた場合は先ずBREAKキーを押し、次にENTERキーを押せば、元の画面が再表示される。

1) 入力形式

コマンド	オペランド
BITSMAIL	受信者名 [S(表題)] [DSN(ファイル名)] <u>SAVE</u> ({ <u>TOP</u> <u>ALL</u> }) [{ ファイル名 }] [MEM(メンバ名)] NOSAVE [{ <u>ACK</u> <u>NOACK</u> }] [{ <u>P</u> <u>N</u> }]

2) 機能

メールを送信する

3) オペランドの説明

受信者名 : メールを送信先を(a)ユーザID, (b)ユーザID@ノード名, (c)ニックネーム, (d)他ネットワークの受信者アドレス のいずれかの形で指定する。

S(表題) : メール表題を52文字以内の英数字で指定する。空白および'&'は不可。

DSN (ファイル名): 送信するメールの本文が格納された順データセットを指定する。このオペランドがない場合はメール本文を編集するためのエディタ(EDIT)が起動される。このオペランドで指定できるデータセットの属性は80バイト固定長のFB形式のものだけである。なお、この属性を持ったデータセットを作成するには以下のようによればよい。次の例では、上記の属性を持ったMAIL.TEXTが行番号なしで作成される。

EDIT 'ユ-ザID.MAIL.TEXT' DATA ASIS NONUM

SAVE|NOSAVE:送信メールをデータセットに保存するか否かを指定する。DSNオペランドの指定がある場合は、NOSAVE指定となる。

MEM (メンバ名): データセットが区分データセットの場合にメンバ名を指定する。DSNオペランドの指定がある場合は、このオペランドは無効となる。

ACK/NOACK : 受信確認通知が必要か否かを指定する。

P|N :送信メールの形式を、P(PUNCH形式)かN(NETDATA形式)で指定する。

4) 使用例

九州大学大型計算機センターの利用者へデータセットMAIL.TEXTの内容をメールとして送信する。

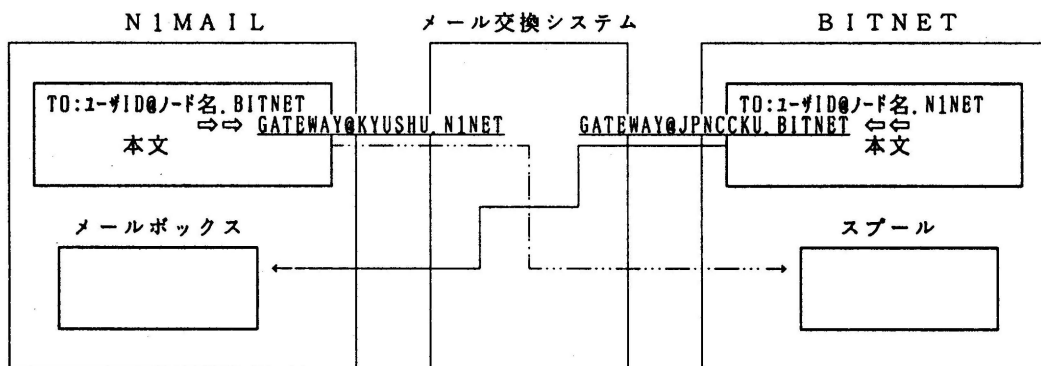
BITSMAIL A70099A S(MAIL-TEST) DSN(MAIL.TEXT) ACK

(ネットワーク室 電(内) 2518)

3. N1MAILとBITNETとのメール中継について

現在、本センターでは、メインフレームの電子メールシステムとしてN1MAIL（大学間電子メール）とBITNETを運用していますが、これら2つのメールシステム間で相互にメールが交換できるようになりました。

これは、各々のメールシステムから直接に他方の受信者アドレスを記述してメール交換を行うような本格的なものではなく、図1に示すように、メール本文の第1行目に相手メールシステムの受信者アドレスを記述して、本センターのGATEWAYユーザ宛へメールを送信することによりメールの交換が行われます。



* 矢印はメールの流れを示す。

図1. N1MAILとBITNETのメール交換の概念図

1) N1MAILからBITNETへの送信方法

N1MAILからBITNETへメールを送信するには、以下の指定が必要です。

- ① N1MAILコマンドの受信者アドレスに "GATEWAY@KYUSHU" を指定する。
- ② メール本文の第1行目にBITNETの受信者アドレスを記述する。記述形式は、

TO: BITNETの受信者アドレス

です。このとき、BITNETの受信者アドレスの末尾には必ず". BITNET" を指定してください。

使用例

名古屋大学大型計算機センターから京都大学大型計算機センターへBITNETのメールとして送信する。（下線を施した部分は、利用者が入力した箇所を示す。）

N1MAIL GATEWAY@KYUSHU

N1MAIL VERSION 3.3 (NUCC)

Enter mail text.

Please enter null line to terminate t>mode

t>TO: 京大のユーザid@JPNKUDPC.BITNET

t>メール本文を記述

t>

Subject: mail test

Posted to network post office.

2) BITNETからN1MAILへの送信方法

BITNETからN1MAILへメールを送信するには、以下の指定が必要です。

① BITSMAIL (または、BITNET) コマンドの受信者アドレスに "GATEWAY@JPNCCCKU. BITNET" を指定する。

② メール本文の第1行目にN1MAILの受信者アドレスを指定する。指定形式は、

TO: N1MAILの受信者アドレス

です。このとき、N1MAILの受信者アドレスの末尾には必ず". N1NET" を指定してください。

使用例

京都大学大型計算機センターから東北大学大型計算機センターへN1MAILのメールとして送信する。

BITSMAIL GATEWAY@JPNCCCKU. BITNET

INPUT

00010 TO: 東北大のユーザid@TOHOKU. N1NET

00020 メール本文を記述

00030

EDIT

SAVE * UNNUM

KEQ5246I SAVED IN DATA SET ...

EDIT

END

3) 注意事項

このメール交換機能を使用する場合の注意事項を以下に示します。

① N1MAILからBITNETへメールを送信する場合には、本文の1行の文字数を80文字以下にしてください(日本語の場合は39文字以下)。

② メール本文の第1行目に相手メールシステムのアドレス指定がない場合は、そのメールは消去されます。

③ 受信確認通知のメールは交換されません。

(ネットワーク室 電(内) 2518)

4. UTSからN1MAILおよびBITNETへのメール送信について

UTSのmailx (または, mail) コマンドで, N1MAIL (大学間電子メール) およびBITNETへのメール送信がメインフレーム(MSP) 経由でできるようになりました。なお, メインフレームを経由した逆方向へのメール送信は, 現在検討中です。

受信者アドレスの指定方法は以下のとおりです。

1) N1MAILへの送信の場合

% mailx ユーザid@ノード名.NINET

2) BITNETへの送信の場合

% mailx ユーザid@ノード名.BITNET

3) BITNET経由で他のネットワークへの送信の場合

% mailx ユーザid%他のネットワークアドレス@JPNCCCKU.BITNET

注意事項

N1MAILおよびBITNETへの送信においては, 以下の点に御注意ください。

① ノード名の後の", NINET"および", BITNET"は, 必ず指定してください。

② 本文中の日本語は, JEFコードに自動的に変換されて送信されます。

(ネットワーク室 電(内) 2518)

5. CIT482の移設について

伊藤忠製漢字ビデオ・グラフィック・ターミナルCIT482を, 本センター2階ターミナル室に移設しました。これに伴い接続方法が変更になります。新しい方法での接続の仕方は下記のとおりです。

i) BREAKキーを押下

ii) " - " を入力 ---> enter class 表示

iii) " u " を入力 ---> class u start 表示

kyu-cc

welcome to FUJITSU UTS

login:

(ネットワーク室 電(内) 2517)

6. 利用の手引ネットワーク編の発行について

この度, 利用の手引ネットワーク編を作成しました。この利用の手引は, 本センターの大学間コンピュータネットワークのサービスと機能の利用法について説明したものです。御希望の方は共同利用掛まで, お申し出下さい。

なお, MANUALコマンドによるネットワーク編も改訂いたしましたので各自, 出力して御利用下さい。

(共同利用掛 電(内) 2515)

7. SPSS/Xの運用について

標記ソフトウェア（リリース2.2）を11月1日から公開しています。カタログドプロシジャおよびコマンドプロシジャは、共に“SPSSX”を使用してください。

SPSS/Xは、従来のSPSSに比べて一部機能追加がなされていますが、コマンド（命令語）については、大幅に変更され、かつ若干の削除部分もあります。したがってSPSSのプログラムをお持ちの方は、参考文献を参照のうえ、SPSS/X仕様のプログラムへ書換えを行ってください。

なお、SPSSについては、当分のあいだSPSS/Xと並行運用を実施しますが、それ以降は運用を打ち切りますので、SPSSのプログラムをお持ちの方は、随時、SPSS/Xへ移行されるようお願い致します。

また、今回のSPSS/Xでは、‘GRAPHICS機能’および‘林の数量化理論プログラム’は使用できません。

参考文献

1. 三宅・山本,「新版 SPSS^X I 基礎編」,東洋経済新報社,1986.
2. 「SPSS^X USER'S GUIDE 2nd edition」,
SPSS Inc., 1986.

(ライブラリ室 電(内)2508)

8. MSP版C言語の制限解除について

11月7日(月)から、標記ソフトウェアの機能の一部が制限解除されています。解除の内容については、以下のとおりです。

(1)ccコマンドの-wiオプションが使用可能となった。これにより、ソースプログラムを注釈として挿入したアセンブルソースを作成することができます。

(2)foopen関数でvolserパラメタを指定して新データセットを作成する時に、newオプションを省略できるようになった。

詳細については、参考文献を御覧ください。

参考文献

1. 計算機マニュアル FACOM OS IV C言語使用手引書 V10/L21 用 (70SP-5630-1),
富士通㈱.
2. 計算機マニュアル C言語文法書 (99SP-4050-1), 富士通㈱.

(ライブラリ室 電(内)2508)

9. データベースシステム GENAS のデータの更新について

10月14日(金)にGENAS[1,2]のデータベースを更新しました。データベースを構成する3つのデータのうち,EMBL核酸塩基配列データ以外の2つのデータ,GenBank(核酸塩基配列データ)とNBRF蛋白質アミノ酸配列データがそれぞれ,リリース54.0から55.0に,リリース15.0から16.0になりました。それぞれの配列数と塩基またはアミノ酸の総数は次のとおりです。

データ名	リリース	配列数	塩基またはアミノ酸の総数
EMBL核酸塩基配列データ	15.0	8,942	10,984,494
GenBank(核酸塩基配列データ)	55.0	17,047	19,156,002
NBRF蛋白質アミノ酸配列データ	16.0	5,251	1,384,621

参考文献

1. 久原ほか, 核酸塩基配列データベースシステム GENAS の使用法(1), 九大大型計算機センター広報, 16, 5, 1983, 497-521.
2. 久原ほか, 核酸塩基配列データベースシステム GENAS の使用法(2), 九大大型計算機センター広報, 18, 6, 1985, 533-551.

(データベース室 電(内)2508)

10. 第10回全国共同利用大型計算機センター研究開発連合発表講演会のお知らせ

標記講演会を下記のとおり開催しますので, 奮って御参加ください。

記

日時: 昭和63年11月18日(金) 9:30~17:00

場所: 京大会館

内容: 7大学大型計算機センターにおける研究開発成果の報告